

大正 10 (1921) 年 8 月 10 日、「御堀埋立工事開始」とあります。新校舎の建設に伴い、「鬼門封じ」と伝える北東入隅の石垣が内堀とともに埋められました。その上の「鬼門封じ」の隅櫓（鬼門櫓）は同年 5 月 22 日に移築に向けた解体を終え、その土居石垣は取り壊されました。

学校を築いたお城大工

明治 6 (1873) 年、暘谷学舎の創立にはじまる日出小学校の歴史。その校舎は当初、日出城（暘谷城）の櫓や御殿を転用しつつ、木造平屋の小ぶりな校舎が連なる教場として営まれました。児童数 700 名超えの右肩上がりであった大正 11 (1922) 年には、木造総 2 階の大型校舎が初めて建設、そして昭和 39 (1964) 年にはさらに大型の鉄筋コンクリート造 3 階建の校舎に引き継がれていきました。

さて、時がたてば学校の校舎の建物や設備、教室の机・椅子など、`あれこれ` `あちこち`と傷んだり壊れたりします。そんな時、地元の大工を招いて修繕してもらっていましたが、『日誌』には気になる一人の大工「高橋徳太郎」が登場します。

江戸時代、日出藩木下家は城内の建物の建築や修理に大工を召し抱え、その筆頭が高橋家でした。高橋家の一門は、本丸南の望海楼（久頓櫓）の修理、日出藩主の菩提寺松屋寺の再建など、城郭や社寺の建物を手がけ、明治時代以降には、城から学校へ、望海楼の教場への改修、校舎の建築や修理にも携わりました。

徳太郎もそうしたお城大工、いわゆるお宮大工の一門、明治・大正期の屈指の匠でした。大正 11 年の新校舎建設工事では、その監督を務める一方、建設のため撤去せざるを得なくなった隅櫓（鬼門櫓）の解体移築工事の棟梁を務めました。



2時間目 毎日、気象観測

今日の気温は 97 度!?

『日誌』の明治 36 (1903) 年 8 月 22 日には、「天気は晴れ、気温は正午 97 度」と記されています。みなさんは「えっ!?暑すぎる…というか間違いでしょ?」と思うかもしれません。じつはこの気温、私たちが日常で使い馴染む「摂氏温度 (°C)」ではありません。明治時代の人々が使い馴染んでいた「華氏温度 (°F)」の気温なのです。

日本ではいつから「摂氏」に変わったのでしょうか。我が国の気象観測は明治の初年、西欧諸国（主にイギリス）の技師の招へい技術や機器の導入にはじまります。気温単位に「華氏」が採用されましたが、明治 15 (1882) 年、気象観測に携わる機関（内務省や陸軍、大学など）での議論を経て「摂氏」が採択されたそうです。その後、内務省が定めた「気象観測法」に「摂氏」の表記が示されました。

『日誌』にみる日出小学校の気象観測（気温）は明治 21 (1888) 年 10 月、表記は「華氏」にはじまります。「華氏」と「摂氏」を併記する年もありましたが、昭和 13



	摂氏温度	華氏温度
単位	°C	°F
考案	1742年 セルシウス (摂氏)	1848年 ファーレンハイト (華氏)
定義	水が氷になる温度 (0度)	氷と食塩を混ぜたものの最低温度 (0度)
	水が沸騰する温度 (100度)	健康な人間の体温 (96度)
凝固点 (水)	0°C	32°F
沸点 (水)	100°C	212°F

「摂氏温度」と「華氏温度」のちがい

「華氏°F」から「摂氏°C」の変換式
 $(°F - 32) \div 1.8$

摂氏温度を採用する国々: 日本 韓国 中国 ロシア ヨーロッパ (イギリスを除く) オーストラリア など

華氏温度を採用する国々: アメリカ イギリス など

「摂氏温度」と「華氏温度」の国々 (略図)

(1938)年4月に「摂氏」に変わりました。このように「摂氏」の普及には時間がかかったようです。

なお、冒頭の華氏 97 度を摂氏に換算すると 36.1 度。近代日出小学校（～昭和 20 年）の観測記録上の最高気温です。記録的な猛暑日、児童や教職員はというと…この日は土曜日、学校はお休みでした。

気温を観測する

明治 21 (1888) 年 10 月、日出小学校において気温の観測がはじまりました。『日誌』には日々の気温が脈々と記録されていますが、日出小学校ではどのように行われていたのでしょうか。

まず観測の機器について。『日誌』には「寒暖計」(明治 21 年・大正 10 年)、また、「検温器」(明治 21 年)、「寒暑鍼」(明治 22 年)と、わずかながらに温度計の計器名が記されています。『気象観測法』(大正 4 年)を参考にすれば、日出小学校では「最高寒暖計」(水銀)、また、これに「最低寒暖計」(酒精=アルコール)を備えた温度計が使用されていたとみられます。

次に観測を行った場所について。『日誌』より観測機器の設置場所を特定することはできませんが、大正 10 (1921) 年 2 月 7 日の観測が「室外」にて行われ、寒暖計の位置を変更したことが記されています(校舎・校地の大改修の時期に重複)。また、気象観測といえば「百葉箱」(観測機器の保護、観測方法の標準化を図る設備)を連想しますが、戦前期に設置されていたかどうかは記録にみえず不明です。

そして観測の日時について。明治時代、気温の観測値は『日誌』の「気象」欄に記入されました。多くの場合、観測を行った時間帯(「正午温度」「午温」「正午」など)、稀にその時刻が併記され、大正 9 (1920) 年以降は「正午温度」の記入欄が新たに設けられました。気温の観測は、登校日や休校日を問わず毎日、「正午」の時間帯を基準に行われていた模様です。



3時間目 災厄、来たる

襲いかかる災害

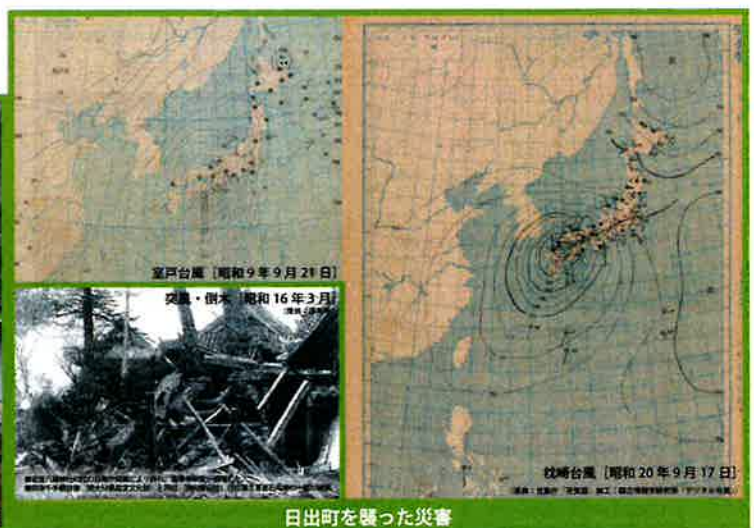
『日誌』には、日出町や小学校はもとより、遠く離れた地を襲った災害の数々が記され、これに「共助-困った時は助け合おう-」の心で被災地や被災者に寄り添う小学校のすがたがうかがえます。

昭和の三大台風数えられる昭和 9 (1934) 年の「室戸台風」(上陸時気圧 911.6hPa)、昭和 20 (1945) 年の「枕崎台風」(上陸時気圧 916.1hPa)。日出町にも牙をむいた猛烈な暴風雨は、学校の校庭の木々、電柱をなぎ倒し、校舎も破損、雨漏りにみまわれました。

昭和 10 (1935) 年 3 月 14 日(火)に発生した「城山」の林野火災。火の手は豊岡・日出の麓の集落を襲い、日出小学校に通う児童を含む多くの人々が被災、家財・家畜ともに避難を強いられました。支援に駆けつけた人は数知れず(婦人会の炊き出し 300 人分)、町役場も義捐金を呼びかけ、日出小学校も教員・児童でこれを募りました。

その前年の昭和 9 (1934) 年 3 月 21 日(水)、函館(北海道)でも大火災が発生。多くの人々が命を落とし、家屋を焼失しました。この時も日出小学校では先生と児童で義捐金を募りました。

大正 13 (1923) 年 9 月 1 日に首都圏を襲った「関東大震災」。日出小学校の児童は、講話や映画会を通じその惨状を目の当たりにし、児童は義捐金に加えて教科書を被災地に寄贈しました。



猛威をふるう疫病

世界中で猛威をふるう感染症「新型コロナウイルス」。私たちはいま、この未曾有の危機を乗り越えつつありますが、こうした人類のウイルスとの戦いは過去に幾度も繰り返されてきました。

『日誌』には、「赤痢」「虎列刺(コレラ)」「トラホーム」「チフス」「結核」など様々な感染症の名がみえます。中でも児童に牙をむいた感染症が「コレラ」と「トラホーム」でした。

明治 35 (1902) 年 6 月、佐賀県唐津でコレラ感染者が確認され、九州全土、四国、中国、近畿と急速に感染拡大しました。日出町では同年 9 月 2 日 (火) に感染者が確認され、翌日より小学校は臨時休校となりました。感染者の増大、死亡者の発生など、授業の再開はおよそ 3 週間後の 9 月 22 日 (月) のことでした。この間、先生たちは校内消毒の対応、授業再開に向けた対策に追われました。また、町内での群衆が集う会合や祭事も、10 月まで禁止されたようです。

「コレラ」に脅かされた明治期の日出の人々。そのすがたは「コロナ」の脅威にさらされてきた現代の私たちにも通じます。

明治 36 (1903) 年から明治 40 (1907) 年、小学校ではトラホームの感染児童が急増しました。罹患率は他の感染症をしのぐ勢いで、学校医の検診や衛生面の生活指導により予防や治療が行われました。



4時間目 学校のシンボル

どうしても二宮金次郎

学校の校庭では、薪を背負い読書に励み歩く「二宮金次郎像」をよく見かけます。尊徳こと金次郎 (1787 ~ 1856) は、農村の救済に尽力し、「報徳思想 (道徳と経済の調和)」を説きました。明治を迎えると、彼の少年時代は孝行・勤勉の手本となり、学校の教科書「修身」(道徳)や「唱歌」に取り上げられ、そのシンボルとして全国各地の学校に銅像が建立されました。戦時下には、国家に尽くす国民のあるべき姿としてシンボリックにその役を担いました。

『日誌』によると金次郎像は日出小学校にも建立され、昭和 10 (1935) 年 3 月 23 日 (土)、銅像の除幕式が盛大に挙行されました。寄贈者は日出町出身の高橋虎男で、兵庫縣阪神国道杭瀬 (現兵庫県尼崎市) 在住のダンスホール (「ダンス・タイガー」) 経営者です。

昭和 16 (1941) 年 8 月、政府は戦争の激化を背景に「金属回収令」を発しました。全国各地の学校の銅像や寺院の釣鐘などが次々と接收され、日出小学校の金次郎像も昭和 17 (1942) 年 11 月 2 日 (月) に撤去されました。しかし虎男はまたも金次郎像を寄贈し、翌年の 1 月 21 日 (木) に再び序幕式が挙行されました。この頃、岡山県和気郡伊部では銅像に代わる陶器製 (備前焼) の金次郎像が大量に生産されており、虎男が寄贈したのは陶像であったとみられます。

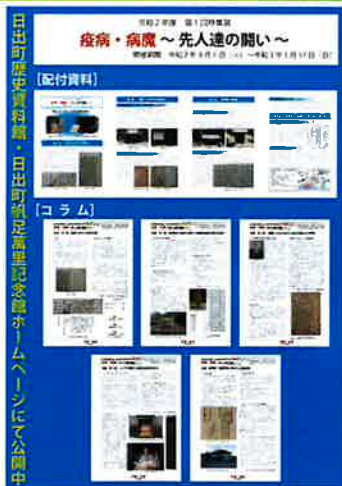
コレラ (虎列刺、馬病)

コレラ菌を病原体とする感染症。19 世紀以降、世界中でパンデミックを引き起こしました。文政 5 (1822) 年に日本に到来し、近代にかけて猛威をふるいました。激しい腹痛や嘔吐、下痢などの症状を引き起こします。死に至るケースもあり、その早さから「虎狼痢」とも呼ばれました。

トラホーム (トラコーマ)

クラミジア・トラコマチスと呼ばれる微生物を病原体とする感染性の眼病。眼球や瞼に様々な炎症を引き起こし、悪化すると視覚障害や失明に至ることもありました。我が国では明治時代後期 (1900 年前後)、青少年の間で猛威をふるっていました。

赤痢、麻疹、結核、チフス、発疹チフス、ジフテリア etc



二宮金次郎像にみる「負傷読書」

記録の初出は…
二宮金次郎の伝記
富田系重著「報徳記」
安政 4 年

像容の初出は…
幸田輝伴著
「二宮尊徳翁」の口絵
明治 24 年
小林永四郎
絵師、狩野宗、日本画家

日出町に
現存する
二宮金次郎像



大津小学校
大津市立大津小学校

川崎小学校
川崎市立川崎小学校

長城小学校
長崎市立長城小学校

天守跡に奉安殿

教育勅語が制定された後の明治末（1910年代あたり）、全国各地の小学校に「奉安殿」が建設されるようになりました。奉安殿とは、「御真影」（天皇・皇后の肖像写真）と「教育勅語」（明治天皇が国民に示した道徳・教育の基本方針）を納める特別な施設です。当時、学校儀礼に御真影の礼拝や教育勅語の奉読が定められ、御真影と教育勅語はいわば「ご神体」、奉安殿は「お社」と、神聖かつ最大の敬意と細心の注意を払い、厳重な管理が求められました。

『日誌』によると、日出小学校では明治29（1896）年、校舎の一室に「奉安棚」が設置されました。大正8（1919）年には日出城天守の跡地を整備し、「奉安殿」が新たに建設されました。校内随一の高台に建つ奉安殿は、校庭（運動場）を見渡すように西に向けられました。奉安殿への礼拝、さらにはその背後のはるか東方、皇居（東京）への遥拝をねらっていたことがうかがえます。

奉安殿は太平洋戦争終戦の昭和20（1945）年、連合国軍総司令部（GHQ）の「神道指令」により撤去の命が下されました。日出小学校の奉安殿も、その翌年以降のどこかで解体、撤去されました。天守跡には継宮明仁親王殿下（現上皇陛下）のご生誕を祝した植樹記念碑（昭和9年）が建立されています。近世日出城のシンボルである天守跡は、近代以降もシンボルで在り続けたようです。



5時間目 学校行事の古今

どこいく？遠足

子どもたちがひとしお心待ちにする学校行事「遠足」。その起源は明治時代、花見や遊山といった伝統的な「行楽」的要素に、集団規律の習得や身体の鍛錬などの「訓練」的要素が付加され、学校行事（校外学習）に規定されていきました。国が推し進めた近代化や国家主義的な教育、国内外の社会情勢などを背景に、戦前の遠足には軍事教練としてのねらいが垣間見えます。

さて、『日誌』にみる日出小学校の遠足は、少なくとも明治43（1910）年までさかのぼります。「卒業」「入学」「進学」と節目の時期にあたる春の3～5月、秋の10～11月に行われ、主には学年単位（高・中・低学年）、時に男女別に分けるなどし、それぞれ行き先が決められました。行き先、それは日出の旧町村（旧南端村・豊岡町・日出町・藤原村・川崎村・大神村）の徒歩で行ける範囲を基本に、鹿鳴越連山、黒岩、横津神社、西嶋精舎跡など、景勝地や歴史・文化にゆかりの名所・旧跡が選ばれました。

近代にみる日出小学校の遠足は、行き先が近郊・遠方とじつに多様で、歩く距離もずいぶんと長かったようです。高学年にいたっては、しばしば別府に赴くこともありました。もちろん徒歩です。「地獄めぐり」、「鶴見園」（遊園地）などを満喫し、帰路は徒歩…ではなく、さすがに汽車を利用しました



運動会は丘の上で

子どもたちに加え、家族もまた心待ちにする一大学校行事「運動会」。その起源は明治7(1874)年の「競技遊戯会」(海軍兵学校)、明治11(1878)年の「力芸会」(札幌農学校)と諸説あり、「運動会」の語がはじめて登場したのは明治16(1883)年の「陸上運動会」(東京帝国大学)とされています。

さて、日出小学校の運動会は現在、毎年5月に校庭の運動場で開催されています。しかし、戦前の日出小学校は春季(5月頃)と秋季(10月頃)の1~2回、春季については校外の鹿鳴越連山中腹の丘「黒岩」(現在の黒岩公園)で開催されていました。明治時代には、近隣の小学校(豊岡・藤原・川崎など)と合同で行われていたようです(「連合運動会」)。校外、合同での運動会の背景には、校庭に運動場が整備されていない、就学・出席する児童が少ないなど、小学校それぞれが抱える事情が垣間見えます。とはいえ、明治33(1900)年11月3日の5校連合(日出、豊岡、津辻、藤原、川崎)の運動会では、「黒岩」に参集した児童は総勢900名、運動種目も40を超えました。

「遠足」にもよく利用された「黒岩」には明治33年5月14日、戦没者慰霊のための「招魂碑」が建立され(最上段の駐車場奥に現存)、春季の運動会は招魂祭とセットで開催されました。



『三十三年度日誌 曙谷尋常小学校』
「十一月三日」



「黒岩」と「招魂碑」

日出小学校

6時間目 訪れる特別な日

記念日、そしてまた記念日

『日誌』には、様々な記念日が登場します。その多くは戦後に廃止されましたが、また、名前や日付を変えて今日に受け継がれたものもあります。記念日は明治、大正、昭和(戦前)と増え続け、迎えた当日はお休み…とは必ずしもならず、日々の授業とともに記念の講話や集会、また、式典が催されました。そうした記念日の中に、日出小学校にとって2つの特別な記念日がありました。「帆足万里記念日」(6月14日)と「学校創立記念日」(6月17日)です。

6月14日は、日出町が誇る偉人「帆足万里(1778~1852)」の命日です。児童はこの日、万里先生にまつわる講話を聴き、墓所(日出町佐尾)や塑像(石膏像/当館蔵)を参拝しました。時に万里の著書(『東潜夫論』)をテーマに、書方(習字)の展示会も催されました。10年節目の回忌の年には、速見郡・日出町の教育会などの主催で、記念祭(式典、講演など)が盛大に挙行されました。

学校創立記念日の6月17日は、児童や教職員に来賓を交えて式典や学芸会、展示会も催されました。式事を終えると、児童にはお祝いの品(紅白餅、鉛筆)が配られました。来賓その他のいわゆる大人たちはお祝いの宴を開き(理科室、応接室など)、茶菓や酒肴(冷酒、カマボコ、イリコ、酢物など)が振舞われました。

明治時代	昭和時代 (一昭和 20年)	大正時代
<ul style="list-style-type: none"> 神武天皇祭(4/3) 招魂祭(5/1,5/7) 地久節(6/1) 学校創立記念日(6/17) 秋季皇霊祭(9/22-9/24) 神嘗祭(10/16-10/17) 教育勅語下賜記念日(10/30) 氏神祭(4/3-11/4) 天長節(11/2,11/3) 豊国社例祭(9/18-11/7) 新嘗祭(11/23) 四方拝・拝賀式(1/1) 孝明天皇祭(1/30,1/31) 紀元節(2/11) 春季皇霊祭(3/20-3/22) 	<ul style="list-style-type: none"> 体育デー(11/3) 御大典(11/10) 新嘗祭(11/23,12/8) 四方拝・拝賀式(1/1) 紀元節(2/11) 春季皇霊祭(3/21,3/22) 元寇650周年記念日(7/1) 七夕祭(7/7) 支那事変記念日(7/7) 国旗制定記念日(7/10,7/11) 和気清麻呂記念日(7/11) 尊徳翁記念日(7/23) 八日市天満社祭典(7/25) 明治天皇祭(7/30) 道徳堂遷移(8/7-9/1) 皇軍連長久坂義典(8/15) 司主権益碑(8/28) 異業奉公日(9/1,10/1,12/1) 大詔奉戴日(9/8,10/8,11/8) 乃木大将記念日(9/13) 吉弘統幸戦士記念日(9/13) 解放者保護宣伝デー(9/13) 満州国承認記念日(9/15) 満州事変記念日(9/18) 昭の記念日(9/18) 航空記念日(9/20) 秋季皇霊祭(9/23,9/24) 神武天皇御即位二千六百年祈年祭(10/5) 視力保存デー(10/10) 戦後援強化週間(10/3・10/5) 軍人看護週間(10/3) 戊申勅書下賜記念日(10/13) 国民精神勸励週間(10/13,2/11) 氏神祭(10/15) 神嘗祭(10/17) 戦後80年(10/17) 教育勅語下賜記念日(10/30) 図書館週間(10/31・11/1) 広瀬淡窓記念日(10/31) 明治節(11/3) 国民精神勸励週間(11/10,11/11) 紀元二千六百年奉祝式(11/10) 赤十字デー(11/15) 結核予防運動日(11/17) 新嘗祭(11/23) 横津新嘗祭(11/23,12/1) 若宮新嘗祭(12/8) 若宮新嘗祭(12/8) 日出町防火宣伝デー(12/1,12/14) 防火デー(12/1) 日出町火災予防デー(12/19) 大東亜戦争一周年記念日(12/8) 神国必勝信託一徳神拝(12/12) 至誠式(12/19/12/20) 大正天皇祭(12/25) 四方拝・拝賀式(1/1) 養子記念日(12/14/1-12/2) 元始祭(1/3) 稚児養育週間(1/22) 小橋公記念日(2/10) 国民精神勸励週間(2/5-) 紀元節(2/11,2/12) 母の週間(3/3) 地久節(3/6,3/7) 母の日(3/6) 交通安全デー(3/7) 陸軍記念日(3/10) 横津神社祈年祭(3/11) 御誓文下賜記念日(3/14) 梅園先生記念日(3/14) 春季皇霊祭(3/21,3/22) 廣瀬中佐三十年祭(3/27) 	<ul style="list-style-type: none"> 神武天皇祭(4/3) 八幡社祈年祭(4/3) 招魂祭(5/5,5/13) 海軍記念日(5/27) 帆足万里記念日(6/13,6/14) 学校創立記念日(6/17) 地久節(6/25) 明治天皇祭(7/30) 乃木大将記念日(9/13) 秋季皇霊祭(9/23,9/24) 戊申勅書下賜記念日(10/13) 氏神祭(10/15) 神嘗祭(10/17,10/18) 教育勅語下賜記念日(10/30) 天長節(10/31)

『日誌』にみる特別な日

あの人やってきた

『日誌』には、児童や教職員、また地元日出町、大分県内の人々はもとより、県外のはるか遠くより様々な人物が日出小学校、日出町を訪れたことが記されています。政治家、学者、作家、軍人など、その道の第一線で活躍した人ばかりで、彼らの中には時代をリードし日本史上にその名が刻まれた人物も。彼らは主に小学校や町役場、郡・町の教育会、その支援団体主催の行事に講師や来賓に招かれ、また、帰郷、外遊に日出を訪れました。

「訪れた人」に限らず、「通り過ぎた人(?)」も見過ごせません。陸路、中でも特に日出、別府・大分と鉄道が開通した明治44(1911)年以降、皇族や官僚、外交使節、軍人など、要人を乗せて往来する汽車が日出を通過します。その情報を得るたび、教職員は児童を連れて日出駅に赴き、通過する汽車を奉迎しました。

なお、訪ねたのは「人」とも限りません。明治36(1903)年1月24日、美作国(現岡山県)吉井川に生息の「山椒魚」が持ち込まれて女子児童が観覧、また、大正11(1922)年6月2日に大きな亀が城下の浜辺に上陸しました(捕獲後に解剖された模様)。大正9(1920)年6月5日には、東豫新聞社(愛媛の新聞社か)の記者が「マンモス(化石?)」を持参し、3年生以上の児童が観覧しました。

7時間目 忍びよる戦禍

警報と防空の日々

太平洋戦争開戦の翌年の昭和17(1942)年4月18日、「警戒警報」「空襲警報」の発令がはじめて『日誌』に記録されます。米軍(B25爆撃機)による日本本土(関東・関西方面)への初空襲で、「ドーリットル空襲」と呼ばれています。遠方の地のことながら日出小学校の児童や教職員、日出町民の多くが、忍び寄る戦禍に言い知れぬ不安を募らせたのではないのでしょうか。

『日誌』によると昭和11(1936)年9月11日、日出町に「防護団」(防空・防火活動の支援団体)が結成され、この年より毎年、「灯火管制」(夜間空襲に備えた明かりの規制)の防空演習が実施されるようになりました。昭和13(1938)年の演習では、焼夷弾による小学校講堂の火災を想定した避難・警備訓練、児童や町民への焼夷弾発火のデモが行われました。こうした演習は昭和初年より、空襲の「脅威」に備えるべく官民協同の「防空対策」として全国各地で行われました。

警報の発令は昭和18(1943)年に「警戒警報」、翌年にはこれに加えて「空襲警報」と日増しに増えていきました。空襲に備えるべく「防空壕」の築造に児童も動員されました。太平洋戦争末期の昭和20(1945)年3月以降は両警報が連日のごとく発令され、日出町の上空を米軍機が通過、時に町を襲来して死傷者もでました。児童や教職員は授業を中断、退避、また、休校を余儀なくされました。

伊藤公爵 (1841～1909)
政治家伊藤博文。「千円札」の旧肖像。日本初の内閣総理大臣に就き、大日本帝国憲法の制定に尽力しました。明治32(1899)年5月17日、遊説の途に日出町を通過。自身の書「福谷降参」(題)を寄贈しました。

新渡戸稲造博士 (1862～1933)
『武士道』の著者。「千円札」の旧肖像。昭和7(1932)年2月12日、別府での講演会の折に來校。城下の科挙「吉成」より望む別府の夜景を目にし、「東洋のナポリ」と称賛したと云われています。

南大將・南総督 (1874～1955)
日出町出身の陸軍軍人南次郎(陸軍大將)。陸軍大臣。朝鮮総督。太平洋戦争終結後、東京裁判で終身禁錮となり。昭和7(1932)年と翌8年に敬待を受け、帰郷、講話・講演を行いました。

堀川宗作 (1884～1929)
眼科医師。東京・小石川で診療所を営み、大正元(1912)年小林商店(現ライオン(株))に入社。口腔衛生の啓蒙に尽力し、種痘券の発行にも取り組みました。大正8(1919)年12月13日、衛生講話に來校しました。

堀・山本海軍大佐
海軍軍人「堀 悳吉」(1883～1959)と「山本五十六」(1894～1943)。悳吉は戦争回避のため軍種転進に尽力し、五十六も戦争反対の立場ながら連合艦隊司令長官として戦争を指揮しました。無二の戦友の二人は、大正14年(1925)年12月10日に來校しました。

久留島武彦 (1874～1960)
玖珠町出身の童話作家。お伽草子や口承童話、ボイスカウトなど、児童文化活動に尽力しました。昭和6(1931)年9月2日、昭和8(1933)年2月11日・17日、講演会の講師に招かれ來校しました。

土屋元作 (1866～1932)
日出町出身のジャーナリスト(時事新報、大阪毎日新聞、大阪・東京朝日新聞)。堀大占(建築家)、滝澤太郎(音楽家)は従兄弟にあたります。昭和6(1931)年6月15日、帆足萬里没後80年記念式典にて、講演会の講師に招かれ來校しました。

久多羅木備一郎 (1885～1965)
臼杵市出身の博士史家。大分県史蹟名勝天然記念物調査委員会、文化財保護調査委員会委員として、調査研究と文化財保護に尽力しました。大正12(1923)年8月10日、日出町史の調査のため來校しました。

日誌にみる歴史人物

堀野 慶洋 (1871～1933) - 仏教文学者 文学博士、鹿林大学学長、新設文学部第一部長
西沢 昭雄 (? ～ 1957) - 国文学者 (法政大学、二松学舎大学、長崎大学山一員)
堀野 昭雄 (1880～1971) - 心理学者 (佐賀高等学校教員)
高田 風流 (1893～1973) - 漢学者 文学博士、京都府立大学・大分大学学術顧問
藤原大佐 (藤原 昭) (1860～1938) - 政治家 (高知県知事(1918～1921))
名越 善全 (? ～ ?) - 買物家大正、買物会発起人
二代目藤原中村善右衛門 (1866～ ?) - 買物家 (日誌にみる)
津田 隆吉 (1871～1943) - 九州博物館学長歴史文学者
火野 葦平 (1907～1960) - 小説家 (『風流』、芥川賞受賞)
光山 百川 (? ～ ?) - 仏教文学者 (駒澤大学学長、水戸守待卿)
道山 一彦 (1881～1968) - 発行人 (読者中、大分県民)
安野 恒太 (1866～1951) - 買物家 (第一生命(株)買物会)
山崎 隆吉 (1873～1954) - 買物家 (興業社、買物会)
百田 賢司 (1870～1943) - 広島高等師範学校、広島医科大学校長、助産師
堀野 昭雄 (1868～1941) - 仏教文学者、東京帝国大学史料館館長、文化財調査



西教寺一帯での防空演習 (昭和18～20年)

兵士を送る、迎える

戦前、国民には兵役の義務が課せられていました。明治6(1873)年、軍備増強を図るべく政府は「徴兵令」を発しました。満17歳～満40歳の男性は国民軍に登録され、満20歳に達した選抜者は3年間の兵役に服し、服役後も戦時召集に応じる兵役が課せられました。太平洋戦争末期の昭和20(1945)年6月には男性の登録年齢は満15歳以上～満60歳以下となり、新たに女性にも兵役が課されました(「義勇兵役法」)。

『日誌』によれば、日出町でも「日露戦争」(明治37年)、「シベリア出兵」(大正8年)に町民が出征しており、中には戦地で命を落とす者もいました。その後の「満州事変」(昭和6年)、「日中戦争」(昭和12年)、「太平洋戦争」(昭和16年)では、戦線の拡大、戦闘の激化、戦局の悪化が連鎖し、召集・出征する兵士、戦死して、遺骨(「英霊」)となって帰還する兵士が激増しました。

また、『日誌』にはそうした兵士に加えて、彼らの出征を見送り、帰還を出迎える児童や教職員の日々の様子が、数えきれないほどに綴られています。汽車にて出征・帰還する兵士を日出駅に赴き激励・慰安し、郷里の兵士に限らず、大分・宮崎方面の部隊・兵士の汽車が通過するとなれば、同じように日出駅に赴きました。



海鷹と小田先生

日出の城下には、別府湾を臨むように「軍艦海鷹之碑」「小田三郎先生をしのぶ碑」の2つの石碑が建立されています。

昭和20(1945)年7月25日、豊後水道で機雷に触雷した航空母艦「海鷹」がけん引されて城下に接岸しました。7月28日、敵機の激しい空襲を受け、

海鷹は大破、日出小学校(日出国民学校)の小田三郎先生が児童を避難させた防空壕の前で被弾、殉職しました。

この一連の出来事は、『日誌』にも戦時下の学校生活とともに記されています。昭和19(1944)年9月、空襲に備えるべく「防空壕」の築造がはじまり、5・6年生以上の児童・生徒が動員されました。昭和20年4月に着手の「下庭、吉虎下り口」(城の東内堀)の防空壕は、小田先生殉職の地なのかもしれません。

そして7月25日、海鷹が終焉の地となる城下に接岸。敵襲を避ける偽装のため、城下の松の伐採が慌ただしく行われました。しかしその甲斐もむなしく、7月28日午前7時に空襲警報発令、7時55分に敵機襲来、海鷹の物資運搬に登校していた児童を守ろうと小田先生は命を落としました。敵襲警戒の最中、7月29日に杵築町で葬儀、8月13日に西教寺で校葬、翌年の命日には「黒岩」(戦前期、戦没者慰霊の招魂祭会場)で追悼会が執り行われました。



8時間目 となりまちの『学校日誌』

川崎小学校の『日誌』

藤原小学校の『日誌』

日出小学校の明治時代

西暦	和暦	主な出来事 (町)	西暦	和暦	主な出来事 (県・国)
			1872	明治 5	3月、大分県に大区小区制施行 8月、「学制」施行
1873	明治 6	3月、日出城址(本丸跡)に鳩谷学舎設立(創立記念日6月17日)			
1874	明治 7	2月、鳩谷学校に改称 松屋寺内に赤山学校設立			
1876	明治 9	1月、武道館(旧日出藩校)に「鳩谷女学校」設立	1876	明治 9	10月、大分師範学校創立(初代校長麻生貞樹)
1877	明治 10	4月、中津隊が鹿鳴越峠を越えて大分県庁を襲撃	1877	明治 10	2月、西南戦争勃発
1878	明治 11	横津神社造営(旧日出藩主3代木下俊長墓所「横津御廟」) 日出村に速見郡役所設置	1878	明治 11	11月、郡制施行(大区小区制廃止)
1879	明治 12	「赤松学校」が「鳩谷学校」に統合	1879	明治 12	4月、大分県下でコレラ発生 9月、教育令公布
1880	明治 13	4月、旧日出藩主木下俊徳、東京にて死去	1880	明治 13	3月、大分県立病院、大分県医学校開設
1882	明治 15	4月、鳩谷学校内に「初等科・中等科・高等科」設置	1882	明治 15	1月、軍人勲章を発布
			1884	明治 17	7月、華族令制定(公侯伯子男の5爵位)
1887	明治 20	4月、鳩谷尋常小学校に改称 6月、日出高等小学校創立 9月、日出高等小学校校舎落成	1887	明治 20	4月、速見郡に高等小学校1校、日出村に設置 布告(大分県令)
1889	明治 22	4月、日出村から日出町へ	1889	明治 22	4月、町村制施行
1890	明治 23	11月、日出高等小学校に御真影を拝受			
1891	明治 24	1月、日出高等小学校に教育勅語謄本を拝受 4月、鳩谷尋常小学校の広間を、日出高等小学校仮教室に借用			
1894	明治 27	4月、鳩谷尋常小学校校舎2棟を新築	1894	明治 27	8月、日清戦争開戦
1896	明治 29	7月、速見郡役所より日清戦争勝利品数点の寄付 7月、奉安壇を設置			
1897	明治 30	5月、木下俊哲(旧日出藩主、子爵)、東京より日出へ移住			
			1898	明治 31	5月、大分測候所、天気予報開始
1899	明治 32	学校医を配置(健康観察、一般衛生の向上) 5月、伊藤博文が日出町通過の折、「鳩谷座敷」の書額を拝領	1899	明治 32	8月、私立学校令公布 10月、小学校教育費国庫補助法公布 6月、清国で義和団事件勃発、日本軍派遣
1900	明治 33	5月、黒岩に招魂碑を建立 11月、黒岩にて5校連合運動会(川崎、藤原、津辻、豊岡、日出) 12月、佐尾に日出高等小学校校舎落成(生徒数増加のため)			
1902	明治 35	9月、コレラ発生、臨時休校			
1903	明治 36	トラホーム治療(洗眼器1台購入) 7月、コレラ発生、臨時休校	1903	明治 36	4月、小学校の教科書国定化の決定 6月29日、瀧廉太郎没
1904	明治 37	校歌制定、校旗新調	1904	明治 37	2月、日露戦争開戦
1906	明治 39	2月、宮城県大肌陸、書籍及び養援金の寄贈			
1908	明治 41	鳩谷尋常小学校校舎を拡張(理科教室)	1908	明治 41	7月、大分歩兵第七十二連隊設置
			1909	明治 42	10月26日、伊藤博文がハルビン(中国)で暗殺
1910	明治 43	6月14日、帆足記念文庫を創設(鳩谷尋常小学校内)	1910	明治 43	8月、韓国併合に関する日韓条約調印 11月、成清博愛、馬上金山の採掘開始
1911	明治 44	3月、日出駅開通	1911	明治 44	11月、大分駅開通

日出小学校の大正時代

西暦	和暦	主な出来事 (町)	西暦	和暦	主な出来事 (県・国)
1912	大正 元	7月30日、児童に明治天皇崩御を通知(服喪中の諸注意)	1912	大正 元	7月30日「大正」に改元
1913	大正 2	6月17日、第四十回創立記念式典			
1914	大正 3	日出高等小学校が閉校 日出尋常小学校を鳩谷尋常高等小学校に改称 10月、秋季大運動会を校庭にて挙行	1914	大正 3	8月23日 ドイツに宣戦布告(第一次世界大戦)
1915	大正 4	3月、鳩谷尋常高等小学校に幼稚園(町立)付設			
1916	大正 5	8月、コレラが発生 10月、日出町青年団発団式挙行			
1917	大正 6	5月、遠足(学年別、別府温泉巡りなど) 11月、修学旅行(福岡・小倉方面)			
1918	大正 7	10月、感冒が流行	1918	大正 7	8月2日、政府がシベリア出兵を宣言
1919	大正 8	5月、シベリア出兵の兵士凱旋、出迎え 5月、春季運動会を黒岩にて挙行 12月、ライオン歯科歯科医師緑川宗作氏の講話 天守跡に奉安殿を建設	1919	大正 8	1月、パリ講和会議
1920	大正 9	4月、日出尋常高等小学校に改称			
1921	大正 10	5月、隅櫓(鬼門櫓)解体完了(上仁王へ移築) 6月14日、帆足萬里七十年記念祭 8月、旧日出城北東内堀の埋立(小学校新校舎建設)			
1922	大正 11	4月、強風のため新築中の校舎(本館)が倒壊 6月、電話の設置 11月、小学校新校舎落成			
1923	大正 12	4月、久留島武彦の講演会 8月、久多福木機一郎が日出城址調査に来校	1923	大正 12	9月、関東大震災
1924	大正 13	3月、汽車で門司方面に卒業旅行(尋六) 9月、関東地方震災に対する児童義援金を郡役所に納付 9月、教科書古本を震災地に発送	1924	大正 13	7月、度量衡法改正施行(メートル法)
1925	大正 14	12月、堀佛吉と山本五十六が来校	1925	大正 14	3月、治安維持法制定 3月、普通選挙法制定
1926	大正 15	10月、広島・博多方面に2泊3日の修学旅行(尋六他)	1926	大正 15	4月、青年訓練所令公布 4月、小学校令改正(日本歴史を国史に) 12月25日、大正天皇逝去、「昭和」に改元

日出小学校の昭和時代

西暦	和暦	主な出来事(町)	西暦	和暦	主な出来事(県・国)
1926	昭和 元	4月、日出青年訓練所を日出尋常高等小学校内に創設	1926	昭和 元	12月25日 大正天皇逝去、「昭和」に改元
1931	昭和 6	6月14日～15日、帆足萬里没後八十年祭	1931	昭和 6	9月、満州事変が勃発 11月、日向灘地震
1932	昭和 7	10月、南次郎(陸軍大将)帰郷、講演会 11月26日 遠見郡内小連合、重光葵の慰安学芸会を開催(校内)	1932	昭和 7	4月、駐露公使の重光葵、上海大長浜砲撃事件で出陣 5月、海軍将校らが犬養毅首相を射殺(5・15事件) 9月、満州国の承認
1933	昭和 8	6月17日、学校創立記念日六十周年記念式典 10月、秋季大運動会を開催(レコード・ラジオ留聲機初使用)			
1934	昭和 9	9月、台風襲来(室戸台風)にて校舎被害多数 学校で大阪地方風水害義援金、函館大震災義援金を募る			
1935	昭和 10	10月、秋季運動会を開催(マイクロホン初使用) 3月、仁王・尾久保・横津・城山一帯にて大火災 3月、二宮金次郎銅像の除幕式 3月、遠足が行われる(別府方面の遊園地、地蔵巡り)			
1936	昭和 11	9月、防護団が育成され、防空演習がはじまる 11月、銃練遠足が行われる(麓鳴起の山々)	1937	昭和 12	7月、支那事変が勃発
1938	昭和 13	志願兵士の家庭に勤労奉仕がはじまる 努力遠足が行われる(別府・日出の神社)	1938	昭和 13	5月、国家総動員法の施行
1940	昭和 15	11月、紀元2600年奉祝式並びに奉祝行事が行われる	1940	昭和 15	10月、人政翼賛会発会式
1941	昭和 16	4月、日出町国民学校に改称	1941	昭和 16	12月、イギリス・アメリカに戦線布告(太平洋戦争)
1942	昭和 17	9月、日出町国民学校応接室に英霊殿を新設 (水塚日を基準に児童代表参拝) 10月、日出町の寺院より梵鐘の供出(「鳴谷城の時鐘」は免れる) 11月、二宮金次郎銅像撤去	1942	昭和 17	6月、ミッドウエー海戦にて空母4隻を失う
1943	昭和 18	1月、二宮金次郎像(陶器製)除幕式 3月、東堀で遺骨探掘(種付10年来)、また、養魚地に改造	1943	昭和 18	5月18日、山本五十六、ソロモン上空で戦死 (6月5日 回葬)
1945	昭和 20	4月、防空壕の築造(学校「下庭」、料亭「吉虎」下?口) 5月、空襲激化により分団学習を実施 7月25日、損傷した航空母艦「海鷹」が城下に接岸 7月28日、小田三郎訓練、敵機の空襲に被弾、殉職 9月18日、台風襲来(札幌台風)にて校舎被害多数	1944	昭和 19	6月、米軍がサイパン島上陸(本土空襲激化)
1946	昭和 21	7月28日、黒岩にて小田訓練の追悼会を挙行 9月、奉安殿の片付け	1945	昭和 20	8月15日、終戦の詔(ラジオで玉音放送) 9月1日、東京湾のミズーリ号上にて、外務大臣重光葵・参謀総長梅津美治郎(大分県出身)が降伏文書に調印
1947	昭和 22	4月1日、学制改革(小学校6年・中学校3年の義務教育実施) 国民学校は廃止となり、「日出小学校」に改称	1946	昭和 21	7月、別府市野口原に占領軍兵舎建設 12月、米第19連隊が大分市より別府へ移駐
			1947	昭和 22	5月3日 日本国憲法施行 10月1日 第6回臨時国勢調査実施 (当時の日本の人口は7310万1473人)

【主な展示資料】

- I 城から学校へ
 - 明治四十一年度 日誌 陽谷尋常小学校 [日出町立日出小学校蔵]
 - 大正十年度 日誌 日出尋常高等小学校 [日出町立日出小学校蔵]
- II 毎日、気象観測
 - 明治三十六年度 日誌 陽谷尋常小学校 [日出町立日出小学校蔵]
 - 明治二十一年自九月 日誌 陽谷尋常小学校 [日出町立日出小学校蔵]
- III 災厄来たる
 - 昭和十年度 日誌 日出尋常高等小学校 [日出町立日出小学校蔵]
 - 三十五年度 日誌 日出尋常高等小学校 [日出町立日出小学校蔵]
- IV 学校のシンボル
 - 昭和九年度 日誌 日出尋常高等小学校 [日出町立日出小学校蔵]
 - 昭和十年度 日誌 日出尋常高等小学校 [日出町立日出小学校蔵]
- V 学校行事の古今
 - 昭和十二年度 日誌 日出尋常高等小学校 [日出町立日出小学校蔵]
 - 日誌 出三年 日誌 陽谷尋常小学校 [日出町立日出小学校蔵]
- VI 訪れる特別な日
 - 昭和八年度 日誌 日出尋常高等小学校 [日出町立日出小学校蔵]
 - 昭和六年度 日誌 日出尋常高等小学校 [日出町立日出小学校蔵]
- VII 忍びよる戦禍
 - 昭和十三年度 日誌 日出尋常高等小学校 [日出町立日出小学校蔵]
 - 昭和七年度 日誌 [日出町立日出小学校蔵]
 - 昭和二十年度 日誌 日出町国民学校 [日出町立日出小学校蔵]
- VIII となりまちの「学校日誌」
 - 学校日誌 [日出町立川崎小学校蔵]
 - 学校日誌 [日出町立藤原小学校蔵]

- 伊藤博文書「陽谷産饗」額 [日出町立日出小学校蔵]
- 当校校地校舎変遷図 額 [日出町立日出小学校蔵]
- 陽谷饗棟札 [当館蔵]
- 二雲の文化 [日出町立図書館蔵]
- 航空母艦「海鷹」艦長室 テーブル [当館蔵]
- 航空母艦「海鷹」艦長室 鷹絵 額 [当館蔵]
- 灯火管制用電灯笠 [当館蔵]

【協力機関】

- 日出町立日出小学校 日出町立川崎小学校 日出町立藤原小学校
- 大分県立先哲史料館 日出町立図書館

日出町歴史資料館・日出町帆足萬里記念館

【開館時間】 9:00～17:00 ※入館は16:30まで

【休館日】 月曜日(祝日の場合はその翌日)

年末年始(12月29日～1月3日)

【住所】 大分県速見郡日出町2602番地1

【住所】 TEL0977-72-6100 FAX0977-72-6103

■所管課 日出町教育委員会社会教育課(文化財係)

〒879-1506 大分県速見郡日出町3891番地2

TEL0977-73-3222 FAX0977-72-8680



日出町歴史資料館・日出町帆足萬里記念館ホームページ(アーカイブ)にて、過去に開催した特集展を公開しています。

[令和4年] 第1回特集展「学芸員のまなざし」/ 第2回特集展「詩文に見る日出の景色」/ 第3回特集展「泰平の世と殿様と一木下俊徳日記から見えてくるもの」 [令和3年] 第1回特集展「ひじ町を掘るー友田遺跡(藤原)と埋蔵文化財ー」/ 第2回特集展「日出・信仰の残影ーザビエル来豊から470年を経てー」/ 第3回特集展「帆足萬里のこころー字ひとりのつながりー」 [令和2年] 第1回特集展示「疫病・病魔ー先人達の闘いー」 [令和元年度] 特集展「日出藩主日記から読み解く参勤交代」 [その他] 発見資料展「延由が蘇る一國松伝説を背負った男の刀ー」(令和3年) / ひじはく「知られざる日出藩石工衆の技に迫る」